

日本企業に就職を希望する学生が学ばなければならない語彙とは － APU の日本語教科書の分析から見えてくるもの－

伊藤 俊也・岡本 輝彦

アブストラクト：

外国人留学生が大手日本企業に就職するためには、高い日本語力が不可欠である。企業側は、就職希望者の日本語力を判断する基準として、日本語能力試験1級合格の有無を重視している。APUの日本語教科書と日本語能力試験の出題基準の比較調査から、1級試験に合格するためには、上級日本語修了後もさらに4700近くの1級語彙を習得しなければならないことが分かった。そのためには、2年次後半には受験準備を始め、語彙力をつける鍵となる漢字の力をつける必要がある。そして、受験用の参考書、問題集だけではなく、専門書や新聞、雑誌などの多様な読み物を通して、語彙の定着、拡充を図ることが必要だ。また、学生の取り組みに任せるだけではなく、学習へのアドバイスや教材作成・整備など、教職員も積極的にこれにかかわるべきである。

キーワード：日本企業、就職に必要な日本語力、日本語能力試験1級、教科書、語彙

1. はじめに

2008年度、立命館アジア太平洋大学（以下 APU）で学ぶ国際学生（一般的に言うところの外国人留学生）の中で、およそ40%が日本企業に就職を希望し、そのほとんどが内定を得た⁽¹⁾。

留学生が日本企業に入るために必要な能力といえば、まずは日本語力である。APU キャリア・オフィス課長の亀田氏によると、留学生がどれだけ職場に溶け込めるかが企業の採用担当者の大きな関心事であり、その前提として日本語力があると考えられているという⁽²⁾。では、企業は留学生の日本語力をどのように判定しているのだろうか。以下はこれに関する同氏の説明である⁽³⁾。

企業の多くは書類審査、次に人事担当者面接、そして役員面接を経て採用者を決めている。例えば、大手と言われる企業に届く応募書類は日本人、留学生を含め数万にのぼり、その中から人事担当者面接に進める者は数百である。そして、最終面接までにさらに絞り込まれることになる。最初の関門である書類審査では、人事担当者は限られた時間で大量の応募書類に目を通さなければならない。そこで、留学生が人事担当者の目に留まるには、日本語能力試験1級取得が最低条件になってくる。

亀田氏の話から、大手日本企業では日本語能力試験の1級を、日本語力を判断する重要な指標として用いていることがわかる。大手企業への就職を目指す留学生にとっては、1級を取得して初めて就職活動のスタートラインに立つことができると言ってよいだろう。

さて、日本の大学では、通常入学志願者の選抜に何らかの形で日本語力を測る試験または課題を課している。そのため、入学志願者は国内外の日本語教育機関で日本語を学習してから大学を受験するのが一般的である。一方、APUに入学してくる国際学生の多くは、英語力によって選抜されており⁽⁴⁾、

かなりの数の学生が日本語学習歴ゼロ、またはほとんどゼロに近い状態で入学してくる。したがって、日本企業への就職に関して、APUの国際学生は入学時から日本語力のハンディキャップを負っていることになる。

では、このようなハンディキャップを持ちながらも、日本語能力試験の1級取得を目指す国際学生たちに、日本語教員としてどのような指導、助言ができるだろうか。

本稿の目的は、APUの日本語教科書の語彙に関する調査、分析を通して、このような学生たちに日本語学習の指針を提供しようというものである。

2. 国際学生の抱える問題

筆者の伊藤と岡本は、これまで担当してきたクラスの学生から、日本語能力試験の勉強の方法やその参考図書についてしばしばアドバイスを求められてきた。学生らと話をしてきて感じたことは、日本語能力試験で何が求められているのか、そして自分自身の日本語力がどの程度なのかを把握できていないまま、試験勉強をしている、または、しようとしている学生が多いということだ。これを長距離走に例えれば、出発地から目的地までの距離がわからないままとりあえず走り出すようなもので、その結果は多くの者が目的地にたどり着く前に、疲れ果てて走るのを放棄するか、または時間切れになってしまうかだ。まず、目的地までの距離（何をどれだけ勉強しなければならないか）を知り、自分自身にあった走法と速度（学習方法と学習進度）を設定し、その上で出発時間（準備を始める時期）を定めなければ、目的地にたどり着くことはできない。つまり、条件や自分の能力に応じた走りの計画、すなわち学習計画が必要になる。

では、このような学習計画をAPUの国際学生自らが立てることができるかということ、それは容易ではないと筆者は考える。その理由は、学生自身が自分の日本語のレベルや学習してきた内容（今まで何を勉強してきて、何を勉強してきていないのか）を日本語能力試験の枠組みの中で把握することがまず困難だからである。

現在、APUの共通教育⁽⁵⁾に設けられている日本語初級Ⅰから日本語上級Ⅱまでのクラスで教えられている内容は、大学での勉学に必要な日本語、いわゆるアカデミックジャパニーズである。オリジナルの教科書と教材の内容や授業内の活動は、その習得を念頭においてデザインされている。したがって、日本語能力試験のような試験準備のための授業ではなく、それに直接役に立つような内容ではない。また、初級Ⅰから上級Ⅱまでの授業時間数は500時間ほどで、日本語能力試験の上級レベルに当たる1級の学習時間、900時間よりも400時間少ない。

このように、APUの日本語教育の枠組みと日本語能力試験の出題基準の枠組みは、質と量のどちらの点でも異なっている。したがって、学生が日本語能力試験の準備をする場合、まず双方の枠の大きさや重なり具合、そして特に2つの枠の異なりの範囲を知った上で学習計画を立てる必要がある。

そこで本調査は、この枠組みの中から語彙に焦点を当て、APUで学習する日本語と日本語能力試験の出題基準の異なりの実態を調査することにした。

3. 語彙調査

今回の調査では語彙を対象とした。その理由は、語彙の習得は読む・書く・話す・聞くという言語運用の基礎であり、その数の多さがゆえに最も準備・学習に時間がかかることから、受験準備の根幹をなすものだと考えたからである。

3.1 調査の概要

共通教育の日本語科目を修了した時点で、それまでどれだけの語彙を学んでいるのか、そして日本語能力試験1級を受験するために、さらにどれだけの語彙を学ばなければならないのかを調査した。

日本企業に就職を希望する学生が学ばなければならない語彙とは
 - APUの日本語教科書の分析から見えてくるもの -

3. 2 調査の手順

- (1) 2009年度使用のAPUオリジナルの日本語教科書（以下、教科書）4冊を対象に語彙を調査した⁽⁶⁾。
- (2) まず、使われている語彙を抽出し⁽⁷⁾、その全体像をつかむために、日本語能力試験の出題基準にある語彙リストに照らして、級別に分類した⁽⁸⁾（表1）。
- (3) 次にAPUの教科書にはない1級語彙、言い換えれば、教科書の語彙を学習した後、さらに習得しなければならない1級語彙の抽出を行った。日本語能力試験の出題基準にある1級語彙リストから、(2)で得た1級語彙を除き、これを日本企業に就職を希望する学生が学ばなければならない語彙とした（表2）。

4. 調査結果

2009年度使用のAPUオリジナルの日本語教科書4冊から抽出された語彙を、級別に分類したものが表1である。

表1 教科書の級別異なり語彙数

	4級	3級	2級	1級	級外	合計
初級用	566	300	302	39	243	1450
	(39.0)	(20.7)	(20.8)	(2.7)	(16.8)	(100.0)
中級用	467	256	487	89	338	1637
	(28.5)	(15.6)	(29.7)	(5.4)	(20.6)	(100.0)
上級I用	559	334	820	272	563	2548
	(21.9)	(13.1)	(32.2)	(10.7)	(22.1)	(100.0)

- ・ 2冊の初級教科書のデータは、初級用として一つにまとめた
- ・ 上段の数値：教科書に使用されている語彙の異なりの数
 下段の数値：教科書の全異なり語彙数を100%とした場合の級別の割合（%）
- ・ 割合の数値は少数第2位を四捨五入したもので、合計は必ずしも100%にならない

初級用の教科書で使用された語彙の異なり語数は1450語、同様に中級用が1637語、上級I用が2548語である。この中には、表1からわかるように、初級用であっても、1級や2級のように高いレベルの語彙が含まれている。また、上級I用でも3級や4級のような低いレベルの語彙を含んでいる。

さて、日本語能力試験級と一般的なレベルの対応関係は、4級と3級が初級、2級が中級、1級が上級と考えられている。そして、出題基準では、4級と3級で1500語程度、4級から2級までに6000語程度、そして4級から1級までに10000語程度の習得が要求されている（財団法人日本国際教育支援協会・独立行政法人国際交流基金2008、p.107）。

教科書で使用されている語彙数と、日本語能力試験で要求されている語彙数を比較すると、中級と上級IでAPUの語彙の枠は狭く、一方日本語能力試験の語彙の枠は広いことがわかる。

次に、APUの教科書では学ぶことができない1級語彙について、これを品詞別にまとめたもの⁽⁹⁾が表2である。

表2 APUの教科書にはない1級語彙

動詞	形容詞	形容動詞	名詞	副詞	連体詞	接続詞	感動詞	合計
948	58	90	1469	88	2	11	4	2670
(35.5)	(2.2)	(3.4)	(55.0)	(3.3)	(0.1)	(0.4)	(0.1)	(100.0)

・上段の数値：品詞別の語彙数

下段の数値：全体を100とした場合の品詞別割合 (%)

APUの教科書にない1級語彙は2670語であった。ここで、気をつけなければならないのは、出題基準に4級から1級までリストアップされている語彙は8009語であり(独立行政法人国際交流基金・財団法人日本国際教育協会2004、p.54)、学ばなければならないとしている1級語彙約10000語との差の約2000語がリストアップされていないことだ。したがって、この約2000語を2670語に加えた数の約4700語が、学生が学ばなければならない1級語彙となる。この約4700語は、APUの教科書で学ぶ全語彙数の約80%に相当する⁽¹⁰⁾。また、表2の2670語を品詞別に見ると、内容語である動詞と名詞だけで全体の約90%を占めている。

5. 1級語彙学習の指針

前節の調査結果をまとめると、授業外で学生が学ばなければならない1級語彙(自分で学ばなければならないという意味で、以降、自習1級語彙と呼ぶ)は約4700語あり、この内の調査対象とした2675語の約90%が動詞または名詞である。

この調査結果をもとに、非漢字圏出身の学生を念頭に置いて、自習1級語彙学習の指針を提案したい。

指針1 受験準備は遅くとも2年次の後半には取り掛かる。

自習1級語彙の約4700語を身につけるだけでも相当の時間が必要である。語彙だけではなく、文字、文法、読解、聴解の練習にさらに時間をさかなければならない。また、何よりも大切な専門の勉強もある。もちろん個人差はあるが、このような諸条件から考えて、1級受験の準備には最低でも1年程度は必要ではないだろうか。就職活動が3年次の後半から始まることを考えると、その時点で1級を取得しているか、受験が終わっていないければ就職活動の役に立たない。そこから逆算して、受験準備は遅くとも2年次の後半には取り掛かる必要があると考える。

指針2 漢字の力をつける。

後掲の資料は、自習1級語彙の動詞リストの一部である。これを見るとわかるように、ほとんどが通常、漢字で表記される。この中には4級漢字で構成された「休学」のような熟語から、「斡旋」の「斡」や「軽蔑」の「蔑」のように級外の漢字を含む熟語まで各級の語彙が入っている。これらの漢字語彙を効果的に学んでいくためには、一つ一つの漢字のコアミーニング(core meaning)を確実に覚えていくこと、そして、語構成について理解しておくことが不可欠だ。例えば、「軽蔑」という語に出会ったら、上級を終了した学生なら「軽」はわかる。「蔑」はわからないだろうから、ここで「軽蔑」の意味だけでなく、「蔑」のコアミーニングも調べておく。すると「蔑」は「見下す、ばかにする」という意味であるとする。そして語構成の知識があれば「軽く(少し)、ばかにする」、「軽んじて、ばかにする」のように結びつきを想像するだろう。この後、「蔑視」という熟語を初めて見ても、「見下して/ばかにして」+「見る」というような推測が可能になる。このような過程を繰り返し経ることで、語彙のネットワークが広がり、語構成から意味を推測し、理解するための知識が増え、語彙に対する

分析力も磨かれていくことになる。

指針3 さまざまな読み物を通して語彙を学ぶ。

指針2で漢字語彙の多さを指摘したが、それらは漢語である。漢語は和語に比べて抽象度が高く、学術的、専門的な文章、書き言葉や改まった表現などでは中核的な存在である。この抽象度の高い漢語を効果的、効率的に習得するには、単語集に繰り返し目を通したり、語彙の練習問題をひたすら解くのも一案だ。しかし、これと同時に、さまざまな読み物を読む中で、その語が埋め込まれた文脈、背景とともに読み取る作業を大切にすべきだと筆者は考える。特に抽象的な語になるほど、この作業が必要だ。抽象語が単独に提示されていたり、テキストの中にあっても学習者がその文脈から切り離して処理しようとする、その抽象性が高いがゆえにその意味処理は形式的、表面的なものにならざるを得ない。教室で読む作業をしている学生を見ていると、電子辞書を頻繁に用いている者が多いが、訳語を見てわかったつもりになり、どんどん読み進めているようだ。どれだけ調べた語を文脈とのかかわりの中で理解しようとしているだろうか心配になることがある。例えば、「改正」、「改定」、「改善」、「改良」、「改革」、「改新」など、どれも「良いほうに改める、変える」という意味の漢語である。これらの訳語同士は多少違っていたり、または同じ語であったりするだろう。これらの抽象的な語の理解を深めて、語彙力を高めていくには、文脈とのかかわりの中で語の意味をとらえる、そして、さまざまなテキストの中で同じ語に数多く出会う経験が重要になる。その中で、例えば「改正」ならば法律関係の話題の中で多く出会うだろうし、そこで「憲法の改正」「改正案」というようなコロケーションを蓄積することができる。このように文脈の中で理解してこそ、「かいせい」という音韻情報、「改正」という表記の情報、そして「法やルールをよくしようと変えること」という意味情報が、学習者の中にまとまりを持って定着していくのである。抽象語の理解には、このような体験が不可欠である。

6. まとめ

日本の大手企業で働きたいという夢を実現するには、日本語能力試験1級の取得が必要である。言語学習の基礎には語彙の習得があり、特に日本語の学習では、漢字の力が鍵である。1級レベル漢字は抽象度が高いものがほとんどで、これを効果的、効率的に学ぶには、語彙リストの活用、語彙の練習だけでなく、様々な読み物を読む活動を通じて理解するプロセスが大切である。そのためには、APUの国際学生は2年次後半という早い時期に準備を始める必要がある。

横田(2009)は、留学の目的の変化について、一昔前の国家建設的なものから、個人的な人生設計の選択によってなされるものに変化していると指摘し、「卒業後の進路を見ても、日本での就職と進学が合計7割近くに達し、母国で就職・進学する者は1割に満たない。」と述べている。APUは国際学生の出身国が非常に多様なため、日本での就職と進学の数字はこの数字よりも低いだろうが、日本での就職を視野に入れた学生が多いことは確かだ。横田は、このような学生の留学目的の変化の指摘に加えて、政府が策定した「留学生30万人計画」に関して、「30万人計画は、人材の獲得(入り口)から、育成(カリキュラム)、就職(出口)までの全体像が組み込まれた初の画期的なビジョンなのである。」()は筆者注)と述べ、「海外からの直接入学制度を開発し、卒業後の就職支援にも取り組む。過去に経験のない急速な大学国際化改革に乗り出すことになる。」と、留学生を受け入れる大学側が次に自己改革をする番だと指摘している。

横田の指摘するこのような大きな流れの中で、留学生に対する日本語教育はどのようにあるべきか。筆者は、「あいうえお」から「レポートの書き方やプレゼンテーション」までと限定するのではなく、大学の入口から出口までのあらゆる過程で日本語教育がかかわるべきであると考えます。

今回の調査は、上述の「カリキュラムから出口」までにかかわる部分を対象としている。この部分

では、アカデミックやキャリアなどのオフィスや、専門科目の教員などとの連携が必要になるだろう。とかく言語教育は専門科目のための事前教育と位置づけられがちだが、今回の調査を通じて、授業の枠を越えた縦断的、横断的な教育体制、学習支援の重要性を認識することとなった。

日本企業に就職を希望する学生が学ばなければならない語彙とは
 - APUの日本語教科書の分析から見えてくるもの -

資料 APUの教科書にない1級語彙の動詞リスト (一部を掲載)

1	仰ぐ	56	潤う	111	開拓する	166	関与する
2	明かす	57	浮気する	112	会談する	167	観覧する
3	赤らむ	58	植わる	113	改訂する	168	緩和する
4	欺く	59	運営する	114	改定する	169	着飾る
5	あざわらう	60	うんざりする	115	ガイドする	170	帰京する
6	焦る	61	運搬する	116	介入する	171	議決する
7	あせる (色が)	62	運用する	117	介抱する	172	棄権する
8	値する	63	映写する	118	解剖する	173	記載する
9	あつらえる	64	閲覧する	119	回覧する	174	きしむ
10	斡旋する	65	演じる・ずる	120	改良する	175	傷付く
11	圧倒する	66	追い込む	121	顧みる・省みる	176	傷付ける
12	圧迫する	67	追い出す	122	掲げる	177	規制する
13	宛てる	68	老いる	123	書き取る	178	寄贈する
14	甘える	69	負う	124	搔き回す	179	偽装する
15	アプローチする	70	往診する	125	恥をかく	180	鍛える
16	操る	71	応募する	126	拡散する	181	規定する
17	危ぶむ	72	オーバーする	127	確信する	182	脚色する
18	歩む	73	オープンする	128	確定する	183	逆転する
19	荒らす	74	侵す	129	獲得する	184	キャッチする
20	改まる	75	遅らす	130	確立する	185	救援する
21	合わす	76	怠る	131	駆ける	186	休学する
22	暗殺する	77	夕食をおごる	132	賭ける	187	救済する
23	暗算する	78	収まる・納まる・治まる	133	加工する	188	休戦する
24	暗示する	79	お産する	134	かさばる	189	寄与する
25	案じる	80	押し切る	135	かさむ	190	教化する
26	言い訳する	81	押し込む	136	霞む (かすむ)	191	強行する
27	家出する	82	惜しむ	137	擦る (かする)	192	享受する
28	生かす	83	押し寄せる	138	傾ける	193	興じる・興ずる
29	意気込む	84	襲う	139	固める	194	強制する
30	育成する	85	恐れ入る	140	がつくりする	195	共存する
31	いける	86	おだてる	141	合唱する	196	協調する
32	移住する	87	落ち込む	142	合致する	197	脅迫する
33	いじる	88	おどおどする	143	合併する	198	共鳴する
34	依存する	89	おどす	144	叶う	199	居住する
35	委託する	90	訪れる	145	叶える	200	拒絶する
36	傷める	91	お供する	146	加入する	201	拒否する
37	炒める	92	衰える	147	庇う (かばう)	202	許容する
38	いたわる	93	怯える	148	かぶれる	203	切り替える
39	営む	94	脅かす	149	構える	204	禁じる・禁ずる
40	挑む	95	帯びる	150	加味する	205	勤務する
41	移民する	96	おまけする	151	噛み切る	206	食い違う
42	隠居する	97	赴く	152	カムバックする	207	くぐる
43	受け入れる	98	重んじる・重んずる	153	絡む	208	口ずさむ
44	受け継ぐ	99	及ぶ	154	かれる	209	朽ちる
45	受け付ける	100	折り返す	155	交わす	210	覆す
46	受け止める	101	織る	156	還元する	211	屈折する
47	埋める	102	おんぶする	157	看護する	212	警戒する
48	うたたねする	103	改革する	158	勧告する	213	軽減する
49	打ち明ける	104	会見する	159	換算する	214	掲載する
50	打ち切る	105	介護する	160	監視する	215	形成する
51	打ち込む	106	開催する	161	干渉する	216	軽蔑する
52	うつむく	107	回収する	162	感染する	217	激励する
53	埋まる	108	改修する	163	カンニングする	218	決意する
54	埋め込む	109	解除する	164	勘弁する	219	決議する
55	売り出す	110	害する	165	勧誘する	220	決行する

221	結合する	276	採掘する	331	失格する	386	指令する
222	決算する	277	採決する	332	質疑する	387	進化する
223	欠如する	278	再建する	333	失脚する	388	審議する
224	結成する	279	再現する	334	しつける	389	進行する
225	結束する	280	採集する	335	実践する	390	進行する
226	決断する	281	再生する	336	嫉妬する	391	申告する
227	欠乏する	282	栽培する	337	指摘する	392	審査する
228	蹴飛ばす	283	再発する	338	しなびる	393	新築する
229	けなす	284	採用する	339	しのぐ	394	進呈する
230	煙る	285	遮る(さえぎる)	340	志望する	395	振動する
231	下痢する	286	さえざる	341	始末する	396	新任する
232	減少する	287	冴える(さえる)	342	染みる	397	辛抱する
233	現像する	288	栄える	343	滲みる(しみる)	398	侵略する
234	限定する	289	逆立ちする	344	謝罪する	399	診療する
235	減点する	290	裂ける	345	謝絶する	400	推理する
236	儉約する	291	捧げる	346	洒落る	401	崇拜する
237	兼用する	292	さしかかる	347	私有する	402	据え付ける
238	恋する	293	指図する	348	修学する	403	すくう
239	交易する	294	差し出す	349	就業する	404	すすぐ
240	公演する	295	差し支える	350	襲撃する	405	廢れる
241	後悔する	296	授ける	351	従事する	406	ストライキする
242	航海する	297	擦る	352	収集する	407	澄ます・清ます
243	抗議する	298	定まる	353	重複する	408	済ます
244	耕作する	299	錯覚する	354	収容する	409	擦る
245	口述する	300	雑談する	355	修了する	410	精算する
246	控除する	301	さっぱりする	356	修行する	411	制する
247	行進する	302	悟る	357	主催する	412	制定する
248	合成する	303	裁く	358	取材する	413	征服する
249	拘束する	304	サボる	359	出演する	414	制約する
250	後退する	305	彷徨う	360	出現する	415	急かす
251	講読する	306	作用する	361	出産する	416	切開する
252	購入する	307	さらう	362	出社する	417	接触する
253	公認する	308	障る	363	出世する	418	設定する
254	荒廢する	309	酸化する	364	出題する	419	説得する
255	興奮する	310	仕上げる	365	出勤する	420	絶望する
256	公募する	311	飼育する	366	出品する	421	全快する
257	護衛する	312	仕入れる	367	樹立する	422	宣言する
258	告白する	313	自覚する	368	準じる・準ずる	423	先行する
259	心掛ける	314	仕掛ける	369	上演する	424	選考する
260	志す	315	指揮する	370	消去する	425	潜水する
261	試みる	316	仕切る	371	証言する	426	潜入する
262	こじれる	317	しくじる	372	照合する	427	全滅する
263	こす(水を)	318	湿気る	373	昇進する	428	占領する
264	こだわる	319	施行する	374	称する	429	創刊する
265	誇張する	320	試行する	375	承諾する	430	増強する
266	固定する	321	視察する	376	象徴する	431	送金する
267	ごまかす	322	支持する	377	譲歩する	432	走行する
268	籠る(こもる)	323	自首する	378	勝利する	433	搜索する
269	雇用する	324	辞職する	379	上陸する	434	喪失する
270	凝らす	325	沈める	380	助言する	435	装飾する
271	孤立する	326	持続する	381	徐行する	436	増進する
272	懲りる	327	辞退する	382	所属する	437	創造する
273	こる(凝る)	328	慕う	383	処置する	438	装備する
274	混同する	329	仕立てる	384	処罰する	439	創立する
275	再会する	330	下取りする	385	処分する	440	添える

日本企業に就職を希望する学生が学ばなければならない語彙とは
- APUの日本語教科書の分析から見えてくるもの -

注

1. 立命館アジア太平洋大学 キャリア・オフィス資料「2008年度APU内定報告状況（2009年3月31日現在）」のデータを基に伊藤・岡本が算出した。
2. 2009年6月29日に立命館アジア太平洋大学、キャリア・オフィス課長の亀田直彦氏に、日本企業に就職するために必要な日本語力について伊藤が行ったインタビューをまとめた。
3. 注1に同じ
4. APUの国際学生の入学基準には、英語の成績で入学選抜される英語基準と、日本語の成績で選抜される日本語基準があり、国際学生の多くが英語基準で入学してくる。
5. 日本語は共通教育の中に位置づけられ、英語基準の学生にとって必修科目とされている。レベルによって、初級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、中級、上級Ⅰ、上級Ⅱの6レベルに分かれている。
6. 調査対象とした教科書
 - ① 初級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ用
 - ・梅田千砂子他（2009）『日本語初級』Part 1 立命館アジア太平洋大学言語教育センター
 - ・梅田千砂子他（2009）『日本語初級』Part 2 立命館アジア太平洋大学言語教育センター
 - ② 中級用
 - ・本田明子他（2008）『日本語5つのとびら-中級編-』凡人社
 - ③ 上級Ⅰ用
 - ・本田明子他（2008）『日本語5つのとびら-中上級編-』凡人社

上級Ⅱは教科書がなく、担当教員が準備する教材を用いて授業を行っている。また、上級Ⅱは語彙、漢字、文法といった言語知識の指導より、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションなどの言語運用の指導が中心なので今回の調査対象から除外した。

7. 語彙の抽出にあたっては、初級用教科書については巻末の語彙索引を使用した。中級用と上級Ⅰ用教科書については、教科書の本文から解説、練習問題までをいったんタイプしたもの、もしくは出版原稿ファイルを「茶筌」「茶まめ」を使って単語の形にして抽出した。
8. レベル判定のために、寺嶋弘道氏オリジナルの日本語能力試験レベル判定ソフトと、リーディングチュウ太を併用した。
9. 教科書中に「勉強」「レッスン」のように名詞として使われていても、それがスル動詞（「勉強する」「レッスンする」）である場合には、動詞に分類した。その理由は、語彙の使用を考えた場合、スルが付くと動詞となると覚えておく必要があるからである。
10. 4冊の教科書で学ぶ語彙は、初級用1450語+中級用1637語+上級Ⅰ用2548語=5635語だが、この中には各レベルで使われている語（重複してカウントされている語）がかなりあると考えられる。また、中級用、上級Ⅰ用の教科書には漢字・語彙練習用のテキストがある。こちらで提出される語彙は今回調査対象としなかったため、実際に学生が学んでいる語彙は上記の数字とは異なる。

語彙調査に使用したツール

- ・語彙の日本語能力試験レベル（級）判定ソフト：立命館アジア太平洋大学 寺嶋弘道
- ・「茶筌」：日本語形態素解析ソフト 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科自然言語処理額
<http://chasen.aist-nara.ac.jp/index.html>
- ・「茶まめ」：形態素解析辞書ソフト 小木曾智信
http://www.tokuteicorpus.jp/dist/modules/system/modules/menu/main.php?page_id=1&op=change_page

- ・「リーディングチュウ太」：日本語読解学習支援システム 川村よし子・北村達也
<http://language.tiu.ac.jp/index.html>

参考文献

- 小池生夫他編 (2003) 「I.外国語教育学」『応用言語学事典』研究社 pp.1-109
小池生夫他編 (2003) 「Ⅷ.心理言語学」『応用言語学事典』研究社 pp.456-569
財団法人日本国際教育支援協会・独立行政法人国際交流基金編著 (2008) 『平成19年度日本語能力試験 1・2級
試験問題と正解』凡人社
社団法人日本語教育学会編 (2005) 『新版日本語教育事典』大修館書店
社団法人日本語教育学会編 (1989) 『日本語教育事典』縮刷版 大修館書店
独立行政法人国際交流基金・財団法人日本国際教育協会編著 (2004) 『日本語能力試験出題基準』改訂版 凡人社
中西泰洋 (2007) 「日本語能力試験の語彙について」『神戸大学留学生センター紀要』Vol.13神戸大学留学生センター
pp.79-86
野元千寿子 (2007) 「日系企業が現地社員に求める「ビジネス日本語」の実態」『ポリグロシア』Vol.13立命館ア
ジア太平洋研究センター pp.69-81
横田正弘 (2009) 「留学生30万人へ産学連携」『日本経済新聞』2009年7月13日朝刊 p.23
立命館アジア太平洋大学 (2009) 『2009年度学生ハンドブック (学部履修編)』立命館アジア太平洋大学

謝辞

本調査にあたって、梅田千砂子先生には初級教科書索引の利用について、本田明子先生には中級および中上級の教科書原稿のファイルの利用についてご快諾をいただいた。また、寺嶋弘道先生には単語のレベル(級)判定用のオリジナルツールのご提供をいただいた。この場を借りて、感謝の意を表したい。